

青森県八戸市松石橋遺跡・田代遺跡出土の水晶原石について

齋藤 岳¹⁾

Crystal Raw Material Found at Matsuishibashi Site and Tashiro Site,
Hachinohe City, Aomori Prefecture
Takashi SAITO

Key words : 資料紹介、水晶、原石、松石橋遺跡、田代遺跡、階上岳

1 はじめに

青森県立郷土館では平成17年度から平成21年度まで5年計画で、「縄文～弥生移行期に関する研究」を実施した。これまでに、縄文時代晩期から弥生時代前期の資料を多数含む故新谷雄蔵氏の収集品の整理(齋藤2009)、館蔵品である縄文時代晩期の八戸市荒谷遺跡出土品の資料の一部を整理し、埋設土器の接合・復元等を行った(青森県立郷土館2009)。平成21年度は、引き続き荒谷遺跡の石器・石製品の全体像の把握を行った。岩版や円盤状石製品、粘板岩の楕円礫の両端に切目の入った小形の石錘など紹介すべき資料があるが、そのほかに注目したのが石英である。石英については敲石1点、礫片1点(意図的に割り取った両極打法の剥片の可能性もある)のほか、礫が4点出土している。また、荒谷遺跡の2004年から2005年の調査でも「石英」の「原石」は2点出土している(水野編2007)。そして無色透明な石英の大きな結晶である水晶については荒谷遺跡に隣接する松石橋遺跡で剥片等が出土し(青森県教育委員会2003)、縄文時代晩期の階上町滝端遺跡からも石鏃と異形石器が出土している(階上町教育委員会2000)。青森県内の水晶については小野貴之氏により出土資料の集積が行われ、氏と十菱駿武氏との現地調査で両遺跡に近い青森・岩手県境に位置する階上岳が産地と考えられている(十菱2004)。

しかしながら、階上岳周辺の水晶体製石器に関しては、原石や剥片など石器製作の状況を示す資料が図化されている例は少ないのが現状である。階上岳周辺の八戸市田代遺跡と松石橋遺跡の水晶の原石については、当館で2007年から青森県埋蔵文化財調査センターから借用展示している。そこで本稿では、縄文時代晩期から弥生移行期の研究から派生した関連資料の紹介として、両遺跡の水晶の原石を図化することとした。

なお、平成21年度は、縄文時代晩期から弥生移行期の研究として亀ヶ岡遺跡等で製作される緑色凝灰岩製の玉についての文献調査等も行っている。それらの調査成果については機会を改めて報告することとしたい。

2 八戸市松石橋遺跡と田代遺跡出土原石の資料紹介

松石橋遺跡からは縄文時代前期から弥生時代前期までの各時期の資料が出土している。報告書では、水晶体製の石器は2点報告されており(青森県教育委員会2003)、第55号土坑から長さ3.11cm、重さ10.7gの原石が1点、第137号土坑から長さ2.94cm、重さ3.2gの剥片が1点出土している。いずれも時期不明である。他にも報告書掲載外の資料として遺構外からの出土品があり、II I-33の第I層から出土した原石を図1-1に掲載する。報告では第I層では「量的には、晩期の土器が多く、後期、中期、前期、弥生時代の順になる」と記載されており、時期不明ではあるが縄文時代晩期の可能性もある。大きさは長さ2.95cm、幅2.0cm、重さ12.7gである。形は四角柱状の不整形である。

田代遺跡出土の水晶の原石を図1-2に掲載する。第2号竪穴住居跡の炉の西側床面から出土したもので、報告書に写真が掲載されている(青森県埋蔵文化財調査センター2006)。長さ7.55cm幅3.0cm、厚さ2.5cm、重さ84.2gで、角柱状に大きく成長した結晶である。上部は透明であるが若干灰色がかっているように見え、下部は白い。第2号竪穴住居跡は縄文時代中期末葉から後期初頭にかけての土器が出土し、土器型式がわかるものでは中期末葉の大木10式併行期のものが出土している。そのため、大木10式併行期の住居跡である可能性が高いと報告されている。

3 おわりに

図1-1に掲載した松石橋遺跡出土の原石は、小型であり、両極打法で打ち割れば、小型の石錐の剥片素材となりうるものである。水晶体製の石錐は階上岳に近い岩手県軽米町大日向II遺跡から出土し((財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1998)、石英製の石錐は岩手県一戸町山井遺跡からも出土している(一戸町教育委員会1995)。

また、水晶は透明な美しさを持つことから、実用の利器に加工できなくても、原石も、そして剥離面の美しい剥片も一定の価値があったかもしれない。図1-2に掲載した田代遺跡出土の水晶の原石は、竪穴住居跡の床面から出土し

1) 青森県立郷土館 主任学芸主査(〒030-0802 青森市本町二丁目8-14)

ており注目されるが、大きさがあり、石鏃や小型の石匙は製作可能である。また、大きく結晶しており、原石自体に美しさなど何らかの意味を感じたとすれば、打ち割ることを選択しなかったことも考えられる。

本稿では、階上岳周辺遺跡の水晶の石器原石を2点図化し、紹介することができた。

水晶製の石器については、縄文時代の交易拠点と考えられる青森市三内丸山遺跡で石鏃が出土している他、小野貴之氏の集成以降も出土例が増加している。水晶製石器が出土している遺跡での原石や剥片の有無の確認、掲載外となっている出土資料の図化、そして岩手県北部を含めた資料の集成と製作・流通の解明等が今後の課題である。

謝 辞

本稿を作成するにあたり所蔵者である青森県埋蔵文化財調査センター及び同所の白鳥文雄氏と杉野森淳子氏、青森県教育庁文化財保護課の小笠原雅行氏、青森市教育委員会の小野貴之氏から、ご教示とご協力を賜りました。深く感謝いたします。

引用・参考文献

青森県教育委員会 2003『松石橋遺跡』（青森県第360集）

青森県埋蔵文化財調査センター2006『田代遺跡』（青森県第413集）

青森県立郷土館 2009『青森県立郷土館報』第36号

青森県立郷土館考古部門 1985「南郷村荒谷遺跡の調査」『青森県立郷土館調査研究年報』第10号 57～71頁

一戸町教育委員会 1995『山井遺跡』（一戸町第36集）

財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1998『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書 第6次～第8次』（岩手県第273集）

斎藤岳 2002「青森県における石器石材の研究について」『青森県考古学30周年記念論集』74頁

齋藤岳 2009「故新谷雄蔵氏の収集品について」『青森県立郷土館研究紀要』第33号 45～60頁

十菱駿武 2004「稲山遺跡出土水晶について」『稲山遺跡発掘調査報告書V』（青森市第72集）66～75頁 青森市教育委員会

水野一夫編 2007『荒谷遺跡』八戸市南郷区役所建設課

階上町教育委員会 2000『滝端遺跡発掘調査報告書』

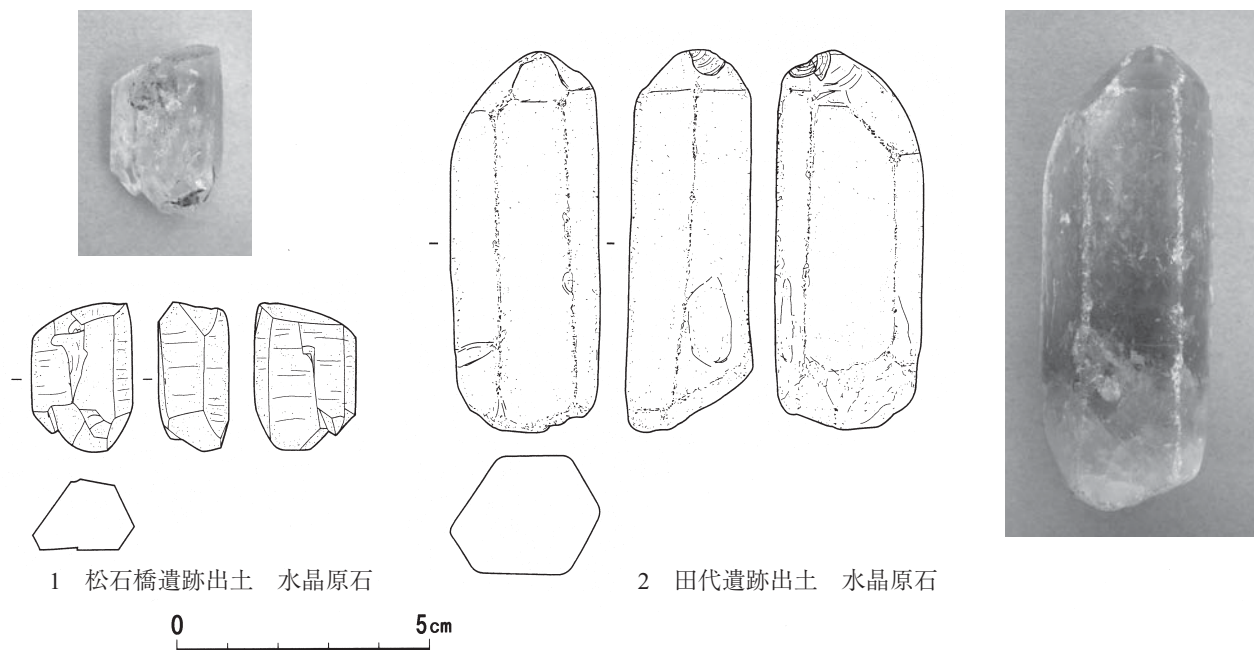


図1 八戸市 松石橋・田代遺跡出土 水晶原石